

(様式1)

視 察 報 告 書

平成27年7月22日

鳥取市議会議長 様

鳥取市議会 建設水道委員会

委員長 上田 孝春



本委員会は、下記により委員を派遣し、行政視察（調査）したので、その結果を報告します。

記

1 期 間	平成27年4月21日から平成27年4月23日
2 派遣先	山口県周南市 佐賀県唐津市 鉄道・運輸機構（熊本県八代市） 熊本県水俣市
3 視察内容 （調査）	山口県周南市 ・上下水道事業の統合について 佐賀県唐津市 ・文化的資産を生かした城内まちづくりについて 鉄道・運輸機構 ・フリーゲージトレインについて 熊本県水俣市 ・環境モデル都市・ごみ分別について
4 派遣委員 の氏名	上田 孝春 委員長 魚崎 勇 副委員長 太田 縁 委員 横山 明 委員 椋田 昇一 委員 秋山 智博 委員 田村 繁巳 委員 金谷 洋治 委員
5 委員会 所見	別添のとおり
6 参加者 所見	別紙のとおり

(別添)

視 察 先	山口県周南市
調査項目	上下水道事業の統合について
(所見)	<p>上下水道の統合は、窓口の集約によるサービスの向上、スリムな組織による処理の合理化、使用料金の徴収率の向上などのメリットがある。本市においても、効果が期待できるため統合を進めて行く必要があると感じた。</p> <p>しかし、その一方で今回の視察により課題があることも分かった。統合前の上水道と下水道の賃金格差や、本庁から管理者が配置されるので独立性、企業性の発揮が難しいなどの課題である。</p> <p>今後は、地方公営企業法を適応することにより、長期計画や経営状況を市民に提供しやすくなるなどメリットがある反面、サービスの低下や、不便感を感じることがないように今回の視察で学んだ課題を踏まえ検討していく必要があると感じた。</p> <p>ただ本市では、上下水道統合の検討の前に簡易水道施設との統合問題をまず、解決しなければならない。現状では平成 28 年度末までに整備することは困難な状況であり、国庫補助金の期間延長と統合後の事業の運営経費の不足分に対する財政支援を国に強く求めていく必要がある。</p>
視 察 先	佐賀県唐津市
調査項目	文化的資産を生かした城内まちづくりについて
(所見)	<p>からつ曳山展示場・旧高取邸・旧唐津銀行等の近世城下町、近代産業都市、文化観光都市の複層する 3 つ時代の文化的資産を活かしたまちづくりは大変魅力的で興味深いものがあった。</p> <p>鳥取市の観光まちづくりを考えると、この唐津市の手法は参考にできると思われる。ただ、コンセプトが重要であり、単に散在する文化遺産を繋げただけでは、総花的になり他都市を上回る魅力は出ないと思われる。それにはまず、埋もれている文化的資源を発掘しそれを基にどんなコンセプト、物語が出来るか考える必要がある。</p> <p>また、唐津市では市民活動と市の事業との連動し、まちづくりのための市民協働組織「まちはミュージアムの会」の立ち上げの支援などが強力に進められており大変すばらしいと感じた。この要因は、市民、関係機関、市(行政)との力強い連携が大きな効果を上げており、本市としても、本事例を参考にしながら、しっかりと歴史、文化を活かしたまちづくりを進める必要があると感じた。</p> <p>そのほか、唐津銀行の創設で知られる「大島小太郎」の旧大島邸の移築保存が進められており、歴史的建造物の保存については、現地保存に拘らず保存する方法を検討する必要があると感じた。</p>

視 察 先	鉄道・運輸機構
調査項目	フリーゲージトレインについて
(所見)	<p>フリーゲージトレインは、電化複線化が整備され、曲線部の少ない在来線のある地域においては、活用効果が見込まれ効果への期待が大きい。</p> <p>しかし、鳥取市を含めた鳥取県への設置を想定した場合、在来線が電化になっておらずディーゼル車ではエンジンとフリーゲージ装置が重複して無理である。従ってまず、電化が急がれる。また、現在の走行試験は雪中で走行は行っておらず、北陸等で今後試験する予定とのことであり、積雪地域での実現はかなり先になると思われた。</p> <p>そのほか、電車による研究開発しか行われていないこと、最低3両編成でないとこの技術は使えないこと、膨大な時間と開発費が必要なことなど課題も多く、早々にできそうな話ではない。</p> <p>いずれにせよ、山陰線や智頭線で導入する場合、電化等をするための費用と時間短縮等との費用対効果の検証が必要だが、フリーゲージトレイン導入以外の高速化も検討する必要があると感じた。</p>
視 察 先	熊本県水俣市
調査項目	環境モデル都市・ごみ分別について
(所見)	<p>環境モデル都市実現にむけて、市民協働の取り組み強化、先進的な環境技術の開発・導入、水俣病の教訓発信を柱に様々な取り組みを展開されており、ごみの減量とリサイクルが必然として行われている。</p> <p>ゴミの分別は21種類のステーション式で行っている。住民協働により分別収集の徹底とゴミの減量化につとめていることはすばらしい。</p> <p>そのほか、印象的だったのは、先進事例には必ず名物人間、卓越した指導者がいるということ。水俣市の職員さんの意気込みが素晴らしかった。</p> <p>しかし、一方で欠点もあり、ステーション数が少なくなる、コンテナの当番の推進員が必要など課題もある。</p> <p>水俣市の規模は本市とは異なるが、地域と一体となり、ごみの減量化とリサイクルは行政・市民共で取り組めるものなので今回の視察で学んだ課題を踏まえつつ、本市においても導入できる点は導入すべきだと感じた。</p> <p>いずれにせよ、市民生活の中で毎日出てくるゴミ問題には、市民の理解協力が必要であり、市民に対して説明協力をお願い、行政として、どう対応していくかということが重要であると感じた。</p> <p>終わりに、鳥取市をはじめとする東部圏域は、新焼却場建設が目前に控えている。これを契機に思い切ったごみ減量化策を講じることが必要ではないだろうかと感じた。</p>